

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス つむぎ		
○保護者評価実施期間	2025年1月12日		～ 2025年2月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19名	(回答者数) 19名
○従業者評価実施期間	2025年1月12日		～ 2025年2月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子どもたちが安心して通所し、楽しみにしている点 →日々の関わりや活動の工夫により、安心感と意欲の向上につながっていると考えます。	・個々の特性に応じた支援 →アセスメントをもとに、一人ひとりの発達段階や特性に合わせた関わりを意識しています。	・支援の見える化 →活動のねらいや成長の様子をより具体的に発信できる仕組みを整えていきます。
2	・保護者満足度が高く、共感的支援が評価されている点 →ご家庭の思いに寄り添う姿勢を大切にしていることが評価につながっていると捉えています。	・情報共有の仕組み作り →職員間での申し送りや記録の共有を丁寧におこない、支援の一貫性を保つよう努めています。	・研修機会の充実 →外部研修や内部研修を活用し、職員の専門性向上を図ります。
3	・安全管理体制が整備されている点 →各種マニュアル整備や訓練の実施により、安全意識の向上を図っています。	・安心できる環境設定 →子どもたちが落ち着いて過ごせるよう、空間構成や声掛けの方法を工夫します。	・保護者との連携強化 →定期的な面談やフィードバックの機会を設け、双方向のやり取りを充実させます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・情報発信の量や方法にばらつきがある →活動内容や支援意図が十分に伝わらない場合があると考えています。	・業務量の増加 →記録や事務作業が増え、支援準備の時間確保が課題となっています。	・業務の効率化 →記録方法や役割分担を見直し、支援に集中できる時間を確保します。
2	・支援の質の均一化 →職員ごとの経験差により、支援のアプローチに差が生じることがあります。	・人員体制の限界 →配置基準は満たしているものの、余裕ある体制づくりが今後の課題です。	・支援方針の明確化 →共通理解を深めるためのミーティングを定期的実施します。
3	・環境面の制約 →スペースや時間の制約により、十分な個別対応が難しい場面があります。	・情報共有方法の未整理 →共有方法が複数あるため、整理が不十分な部分があります。	・発信方法の工夫 →写真や具体的エピソードを活用し、より分かりやすい情報提供を目指します。